

地元の  
底力

## SOS江東の取組み

避難されている方と共に  
前に向かって進んでいく

「こんにちは～。  
あら、今日はいっ  
ぱいいるわね～」  
「どうぞ、どうぞ、  
こっちきて座って！」

主に福島から避難し  
てきた方々が住む江東  
区の国家公務員宿舎「東  
雲住宅」の集会場でサ  
ロン活動が行われていま  
す。東雲住宅には、現在、  
約1,000人の方が避難されて  
います。

サロン活動を行っているの  
は災害ボランティア団体「SO  
S江東」。東雲住宅に出来た住民  
組織「東雲の会」と江東区社協と協働して開催しています。サロ  
ンは、火曜と木曜の週2回。午後1時～4時まで開かれています。

SOS江東は、聴覚障害のある方から寄せられた「災害時、自  
分たちは情報から取り残されてしまう」という相談がきっかけ  
で平成20年に設立。勉強会を開催し、聴覚障害者や手話につい  
て学びながら、災害時に必要なグッズ等の作成やイベント等で  
の災害時要援護者の防災普及啓発を行っていました。

東日本大震災時には、SOS江東の中でも「この震災とどう関  
わっていったらよいか」と話し合いがもたれ、なかなか方針が  
決まりませんでした。区内に避難されている方を対象に活動  
していくことが決まりました。そんな折、江東区に多くの被災  
者が避難してくるという情報が入ってきました。区や社協とも  
連携を取りながら、区内の避難所で、被災者を受け入れるため  
の準備や救援物資の収集と仕分けを行いました。

避難生活も落ち着いてきたころ、江東区内に避難されている  
人の中に、閉じこもりがちの人も出てきました。何とか外に出  
て欲しいと思っていたところ、8月上旬に東雲住宅の集会室が  
使えるようになり、社協とも相談しながら東雲住宅の方と共に  
サロン活動を実施することになりました。当初は1日4～5人  
の日もありましたが、継続して活動するうちに徐々に参加者が  
増えていきました。「どこに買い物に行ったらいいかわからない」  
「電車、バスってどうやって乗るの?」といった相談に応じる中  
で、少しずつ互いの顔が分かるようになっていきました。

SOS江東代表の小原忠直さんは「皆さん、本当に元気。でも、  
中には“ちょっと聞いて欲しいんだけど…”と避難生活の悩み  
を相談される方もいる。私たちが解決できることは多くはないが、  
悩みがあればどんどん聞いていきたい」と話します。SOS江東  
では、傾聴に関する学習会を開くほか、相談の中で解決できな  
いことは江東区社協や、サロンに協力してくれている司法書士  
につないでいます。「SOS江東として“こうしたい”ということ  
は今はまだ決めていない。避難されている方からお話をどんど  
ん聞く中で共に前に向かって進んでいきたいと思っています」。



震災からの  
復興

福祉広報 2011年11月8日発行  
No.635

発行人=野村 寛  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
東京都新宿区神楽河岸 1-1 ☎03-3268-7171

毎月1回8日発行/定価300円(消費税込)

振替口座・00110-4-71955

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/>